



小川小学校

○ 考える子 ○ 優しい子 ○ 元気な子

学校だより



令和2年6月5日 No.7

《小川小学校の感染予防の取組》

6月1日より分散登校ではありますが、子供たちの笑顔が学校に戻ってきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の脅威は完全に取り除かれたわけではないので、学校ではその対策をできる限り徹底してまいります。教室では密集・密閉・密接を避けるために、窓を開けて、マスクをつけて、友達と距離をとり、学習しています。

保護者の皆様には、今後ともご理解とご協力をよろしく申し上げます。



【昇降口で密集を防ぎながら
順番に並びます】



【登校後すぐに手洗いを実施】



【受入れ児童が特別教室で
密集防止を配慮して自習】



【教室での授業で密集防止】



【身体的距離を1m以上確保】



【児童下校後に机・いすを消毒】



【密接を考え登校する児童】



【教員はフェイスシールド着用】



【足形を記して密接防止を
考慮した身体測定】

《小川小学校のプールの歴史》

小川小学校のプール横には銅像があります。小川小学校誌には次のように書かれています。「昭和30年代を迎えると国の経済力もある程度回復してきたが、このころより河川の汚れがひどくなり、児童にとって格好の遊び場であった沼や川は水泳に適さなくなった。そのような状況のなかで昭和35年小川小学校にプールが完成した。この建設にあたっては、小川小学校の卒業生で大塚 育さんの寄贈によるものであった」。昭和35年当時のプールは、現在の小川町役場の場所に小川小学校があり、そこにプールが建てられました。また、小川小学校誌には次のように書かれておりました。「プール開きの日、これまで泳ぐことを忘れていた多くの児童は、不安げな顔でおそるおそる水に入ったが、すぐになれて、大きな歓声が道行く人にも聞こえ、足を止める人が多かった」。当時の児童も水泳学習は、楽しみの一つだったと感じられました。



《今年の水泳学習の中止について》

子供たちの大きな歓声が聞こえるよう本校では水泳学習の計画を立てておりました。しかし、先日学校から配付された文書でもお示ししたとおり、今年の水泳学習は、実施しないこととなりました。

理由は、次のとおりです。

- ①児童の定期健康診断が完了しておらず、児童の健康状態が把握できていないこと。
- ②多くの児童が同時にプールや更衣室を使用する等、児童の密集・密接の場面が想定され、様々な感染リスクが考えられること。

真夏の太陽の下、水しぶきと子供たちの元気で楽しそうな声が響きわたる水泳学習の実施に向けて、職員でプール清掃の計画を立てておりましたが、実施することができず、とても残念です。1日も早くこの事態が収束し、来年度は安心して水泳学習のできることを願っています。

6月の生活目標 進んであいさつしよう 時刻を守ろう

地域の方に元気よくあいさつできるといいですね

自主学習の継続を！

臨時休業中に「自主学習」に取り組めたこと、とてもうれしく思います。自分から進んで、無理しすぎず、毎日コツコツと続ける習慣をこれからも続けてください。

自主学習は、学力がアップするだけでなく、達成感や成就感を感じることで、その子供の大きな自信になります。自信がつくと、ほかの活動にも意欲が広がり、さらに多くの力を身に付けられると思います。

保護者の皆さんにお願い

- 新型コロナウイルス感染症は、まだまだ油断できない状態であり、お子様の健康を第一に考え、朝、体調の悪い場合は自宅での休養をお願いします。
- 児童が学校へ登校して、体調が悪くなった場合、保健室での休養はできませんので迎えをお願いします。必ず連絡がとれる緊急連絡先を担任までお伝えください。。